

令和6年度 第1回島田市地域ケア会議意見等集約表

| No. | 委員名 | 資料ページ | 意見等 | 回答等 |
|-----|-----|-------|--|---|
| | 委員 | 1～2 | 最近東京都の都知事の選挙でも課題としていた少子高齢化・生産人口の減少について何か具体策を考えないといけないと思うが市の考えを知りたい。 | 人口減少問題を克服・適応し、住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある島田市を維持していくことを目的に、「島田市デジタル田園都市構想総合戦略（以下、「総合戦略」という。）」を策定しています。総合戦略では、3つの基本的な考え方として「地域経済の持続的な発展」「人口減少の克服・適応」「持続可能な暮らしやすいまちづくり」を位置づけており、人口減少・少子高齢化が進行している中であっても、本市の持つ特性・魅力を生かした独自性のある戦略・施策を推進・展開し、人口減少の克服・適応の実現に向けて取り組んでいます。 |
| | | 6 | 施策の体系の中で②地域で過ごしやすい生活支援体制の整備という問題について、実際にあったケアの話だが在宅酸素で独居・集合住宅の3階に住んでいる方のごみ捨てで困ったことがありました。R6年3月に同居の妹が亡くなり特に困ったのがごみ捨ての問題だった。ごみ捨てを担う妹が居なくなった直後は隣組の人がやってくれることになったが2か月ほど経つと介護保険を利用してやってもらえないかと包括に相談が行った事があった。地域の協力を望めない社会となっていると感じた。支え合いの仕組み作りとあるがどのように進めていくのが良いか具体的に進めないといけな | 住民主体の生活支援・外出支援サービスの提供等、各地域のニーズに合った支え合い体制の構築に向け、社会福祉協議会等と協力しながら、応援隊等の立ち上げ支援をしています。 頂いたご意見は、それぞれ課題として認識していますので、関係者を含めて情報共有ながら、課題解決に向けて、取り組んで |

| | | | |
|----|---|--|--|
| | | <p>いと思う。独居の方の介護保険で賄えない支援をどのようにして行けばよいか、高齢者が行きやすく相談しやすい環境を身近に作ることも必要と考える。包括へ行ける人ばかりではない。民生委員とケアマネとの連携がとりやすいように制度を変える必要もあると考える。各町内の活動にも行けない人がたくさんいる。介護予防のしまトレと言っても行かない人・行けない人がいる。どのように解決していくか皆で考えたい。</p> <p>全体として具体的問題に解決策を考えられるようにして行ければいいと思います。施策体系としては整っているが具体的に施策の実現にはいろいろな問題が潜んでいる。それを解決できる場になって欲しいと思います。</p> | <p>いきたいと考えています。</p> |
| 委員 | 4 | <p>「医療、介護の連携強化」</p> <p>コロナ流行前は入院し、その後施設入所が普通と思っていたのですが、コロナ禍を経て、最期は自宅で看取りの依頼が増えている。医療と在宅介護サービスを利用され連携したケースが見られ、より重要なことだと思えます。</p> <p>「住み慣れた地域で最期まで自分らしく過ごす」ための体制づくり</p> <p>施設で面会禁止や制限のあった頃、会えないまま亡くなれることも。</p> | <p>コロナ禍を経験し、医療と介護連携の重要性を再認識しています。市では、訪問看護ステーションと病院看護部、介護支援専門員との合同研修会や多職種合同研修会の開催など、医療と介護の更なる連携強化を図るため、顔の見える関係づくりに取り組んでいます。</p> |
| | 5 | <p>「介護人材の確保・定着」</p> <p>介護職離職防止、在宅サービスの訪問介護員の高齢化が進みヘルパー60代の雇用で、中心となって働いている。2040年に要介護者が増え続けると、介護人材確保は難しい。会社で毎月、人材確保・定着に向けた取組みを行っているも応募者が少ない。</p> <p>外国人を採用（ハローワーク紹介）</p> | <p>介護人材不足の解消策として、「介護職員入門的研修」や島田市社協と共催の「介護職員初任者研修」等、これまで介護と関わりがなかった人など介護未経験者が介護に関する知識や技術を学ぶ研修を実施し、研修修了者への就労支援を行うことで、介護分野へ多様な人材の参入を促している。</p> <p>※令和6年度も実施予定</p> |

| | | | | |
|--|----|---|---|--|
| | | 8 | 「地域で過ごしやすい生活支援体制の整備」 介護保険給付での生活援助を見直す必要があるかと思います。 | 今後も、生活支援サービスの充実を図るよう努めて参ります。 |
| | 委員 | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成事業 認知症の方で、自宅での生活がまだ可能な状態にも関わらず、家族が周囲の目を気にして施設へ入所させてしまうケースがあるため、認知症に対する理解の啓発活動に、より力を入れて下さればと思います。 ・徘徊の症状のある方の家族へのサポート事業 ・川根地区移動支援サービス事業 通院や買い物等でニーズが高いため、希望者が利用しやすくなるよう改善をお願いします。 (現状は、普段利用している人で予約が埋まっている印象) | <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方も住み慣れた地域で安心して生活できるよう、市でも「認知症にやさしい街」を目指し、様々な取り組みを実施しています。認知症サポーター養成講座では、市内6カ所にある高齢者あんしんセンターと協力し、地域で認知症サポーター養成講座を展開しているところです。 ・認知症サポーター養成講座では、学校、地域の団体や個人、企業等へ、今後も普及啓発を展開していきます。 ・徘徊の症状のある方の家族へのサポート事業については、市では ・徘徊高齢者等事前登録事業：市や警察、高齢者あんしんセンターが事前に情報共有することで、速やかな発見や保護につなげる事業 ・認知症高齢者等個人賠償責任保険事業：市が契約者となり加入した個人賠償責任保険により、認知症である高齢者の偶然な事故による法律上の損害賠償責任を負担した場合について補償する事業 ・新たに令和6年度から実施している事業としては |

| | | | |
|--|----|---|--|
| | | | <p>認知症高齢者等位置探索サービス利用補助事業：高齢者等の見守りや行方不明時の居場所確認のため、GPSを用いた位置検索サービス利用する場合に初期費用を助成する事業があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も認知症にやさしい街を目指し、各事業等を推進していきます。 ・川根地区移動支援サービス事業 <p>車両及び運転できる方が限られているなかで事業を実施しております。利用日が決まっている場合は、早めに予約をさせていただくようお願いしております。</p> <p>予約については、遅くとも3日前までに予約をさせていただくことになっており、早い段階での予約の場合には、ほとんど予約できる状況にあることを事業者を確認しております。</p> |
| | 委員 | ACP ノートを薬局の待合室に置いたところ、すぐになくなってしまいました。患者様の関心の高さが伺えます。追加で配布していただけるとありがたいです。 | 要望に応じて配布していますので、必要部数を配布します。 |
| | 委員 | <p>ACP について</p> <p>以前より、似た意味としてアドバンスディレクティブリビングウィルという言葉があったかと思えます。それらについては普及できていないと感じています。</p> <p>ACP とアドバンスディレクティブリビングウィルの違いが個人的にはつき</p> | ACP とは、もしものときに備えて、どのような医療やケアを望んでいるかなどを家族などと話し合うプロセスを指すのに対し、アドバンスディレクティブリビングウィルとは、もしものときの医療やケアにつ |

| | | | | |
|--|----------|---|---|---|
| | | りしません。 ACP の普及啓発の必要性は十分理解できますが、言葉として意味が曖昧な印象を受けます。より具体的な内容を例など示して頂けると良いかと思えます。 | いて、自分の意思を生前に書面で表明することです。 ACP を「人生会議」とも呼んでおり、よりわかりやすい方法で周知していきたくと考えています。 | |
| | 委員 | — | 第9次の福祉計画が終わる中、第9次の項目毎の検証結果があれば出していただきたいのですがいかがですか。 | |
| | 委員 | 8 | 本計画に関連する「島田市地域医療を支援する会」の活動は、主に基本目標4「連携体制の強化による医療と介護の連携の推進」の基本施策2「在宅医療、医療と介護の連携推進」になると思います。 私たちの活動は、主に島田市総合医療センターの医師の皆さんによる、生活習慣病等を中心とした疾病への理解と啓発、総合医療センター、救急センターの現状、消防署・救急救命士による救命活動、健康づくり関係の各種事業の紹介・普及啓発、乳幼児を持つ親への出前講座、高齢者サロンへの出前講座などです。その他にも、県、関係団体と連携した講演会・シンポジウムも開催しています。 いずれも、基本理念「誰もが健やかで幸せに暮らせるまち・島田」について、島田市民の皆さんと一緒に考える「場の提供」に心がけています。 | 医療学習会の開催等、市民への普及啓発活動に御尽力いただき誠にありがとうございます。今後も医療と介護の連携推進、ACPの普及啓発等、協力しながら事業を進めていきたくと考えています。 |
| | 包括支援センター | | 概要版だけ見ても事業の内容が分からず意見を書くことが難しいのでは？ (78) 高齢者見守り台帳 ・活用方法（誰が保管して誰が見れるのか） →包括との情報共有はできないか。 本人に家族の連絡先を聞くことが難しい時に教えていただけるとありがたい。 | 会議の場で、本編を配布させていただきます。 高齢者見守り台帳は、民生児童委員への情報提供資料となりますので、それ以外への情報共有は、個人情報保護の関係上、現状、難しい状況です。 |

